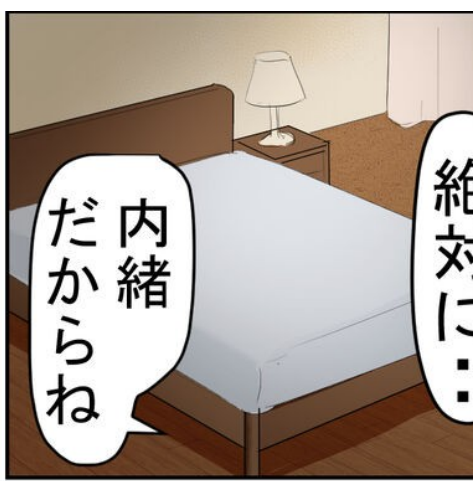




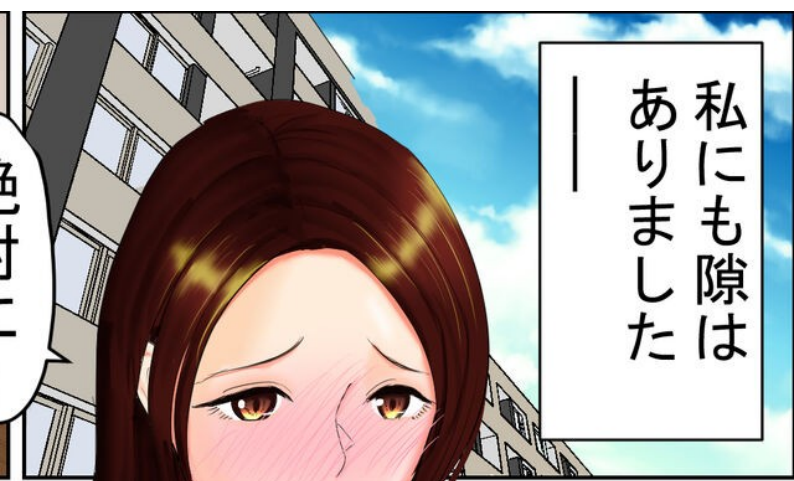
押忍っ

ッ



内緒
だからね

絶対に：



私にも隙は
ありました



ッ

おおっ

イイ匂い

感激ッス

息子の友達の
アツシ君



ケンが帰ってくる前に：

友母願望

すぴか屋

同じマンション
で

いらっしやい

昔から
よく遊びに来てた

時々彼の視線を
感じることは
あったけど――

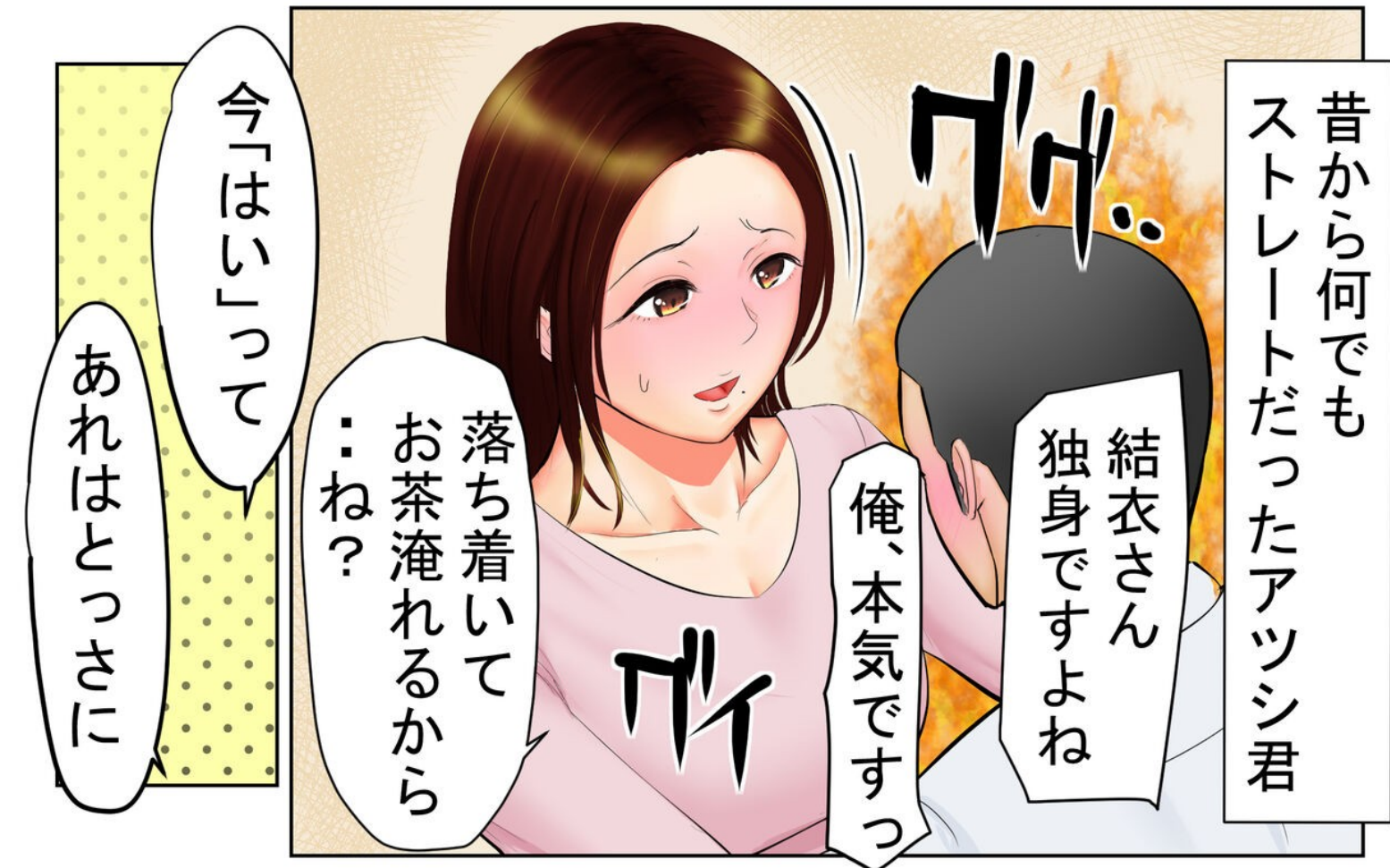
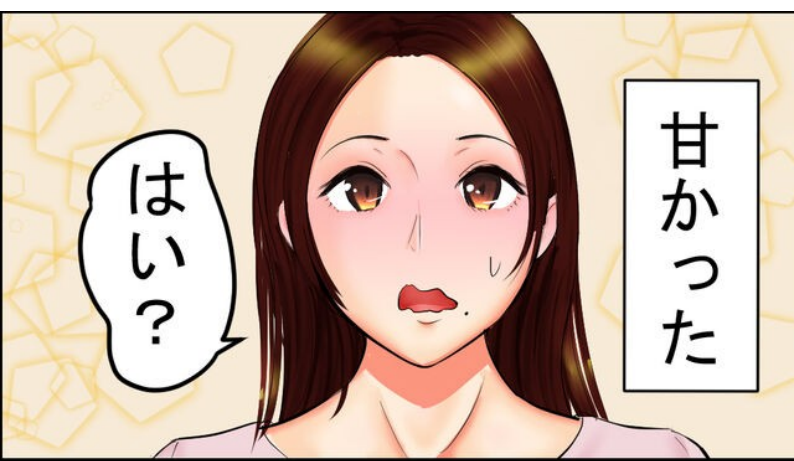
ケン：靴揃えなさいって
この前も

思春期の
ことだし

あ：

……ゆっくり
していったね

気にしない様に
してたのに

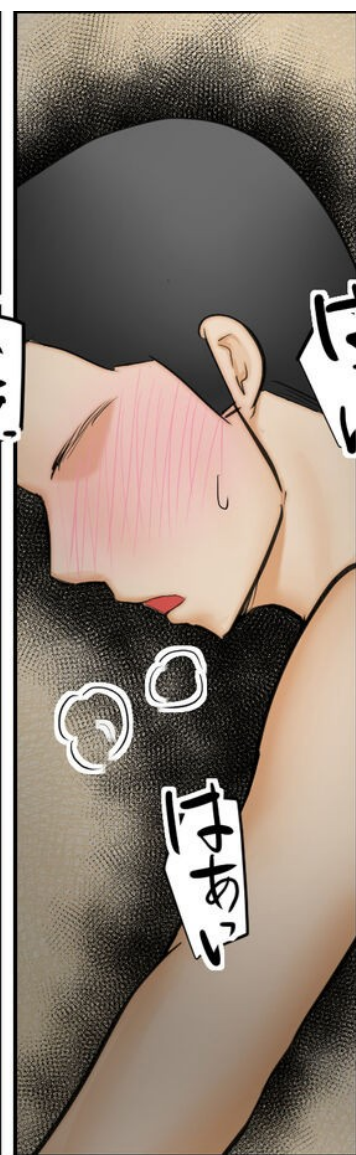




結衣さん

あ

すっげえ
柔らかい：

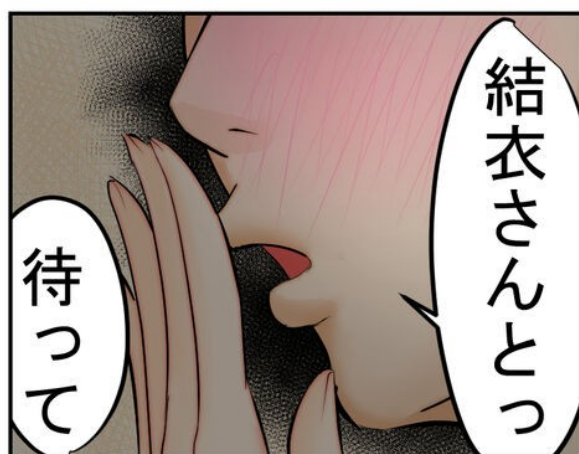


はあ

はあ

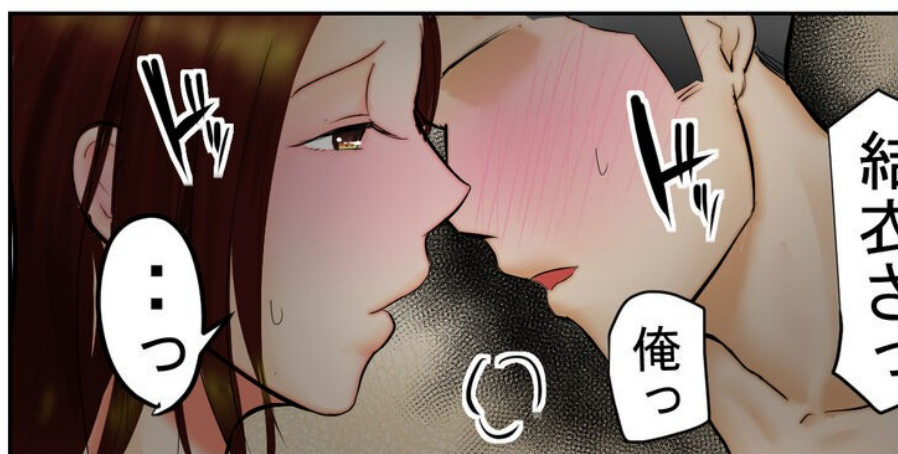
はあ

はあ



結衣さんとお

待つて



結衣さん

はあ

：

俺

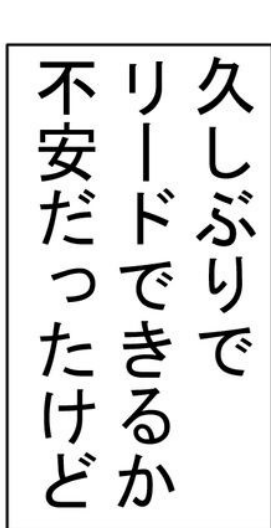
はあ



こうして：

そう

つつ着けました

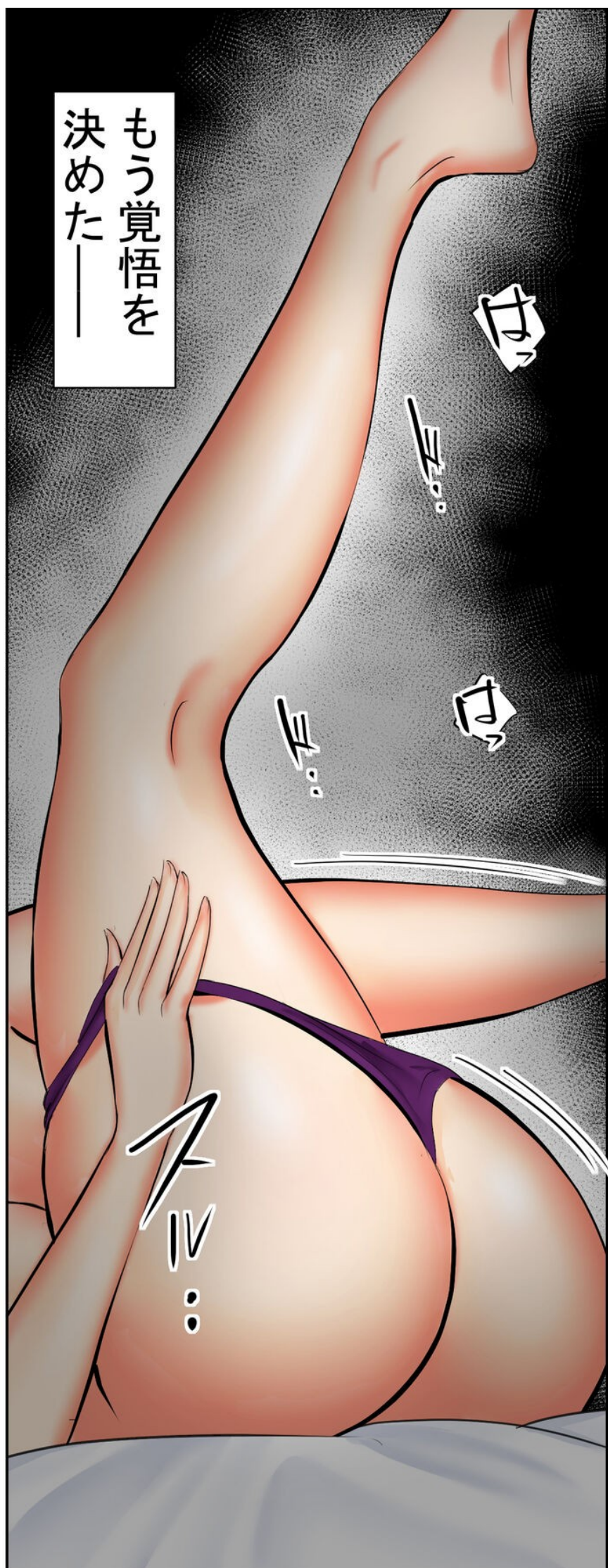
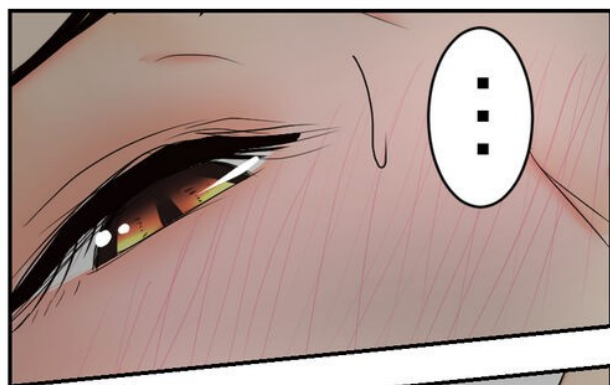


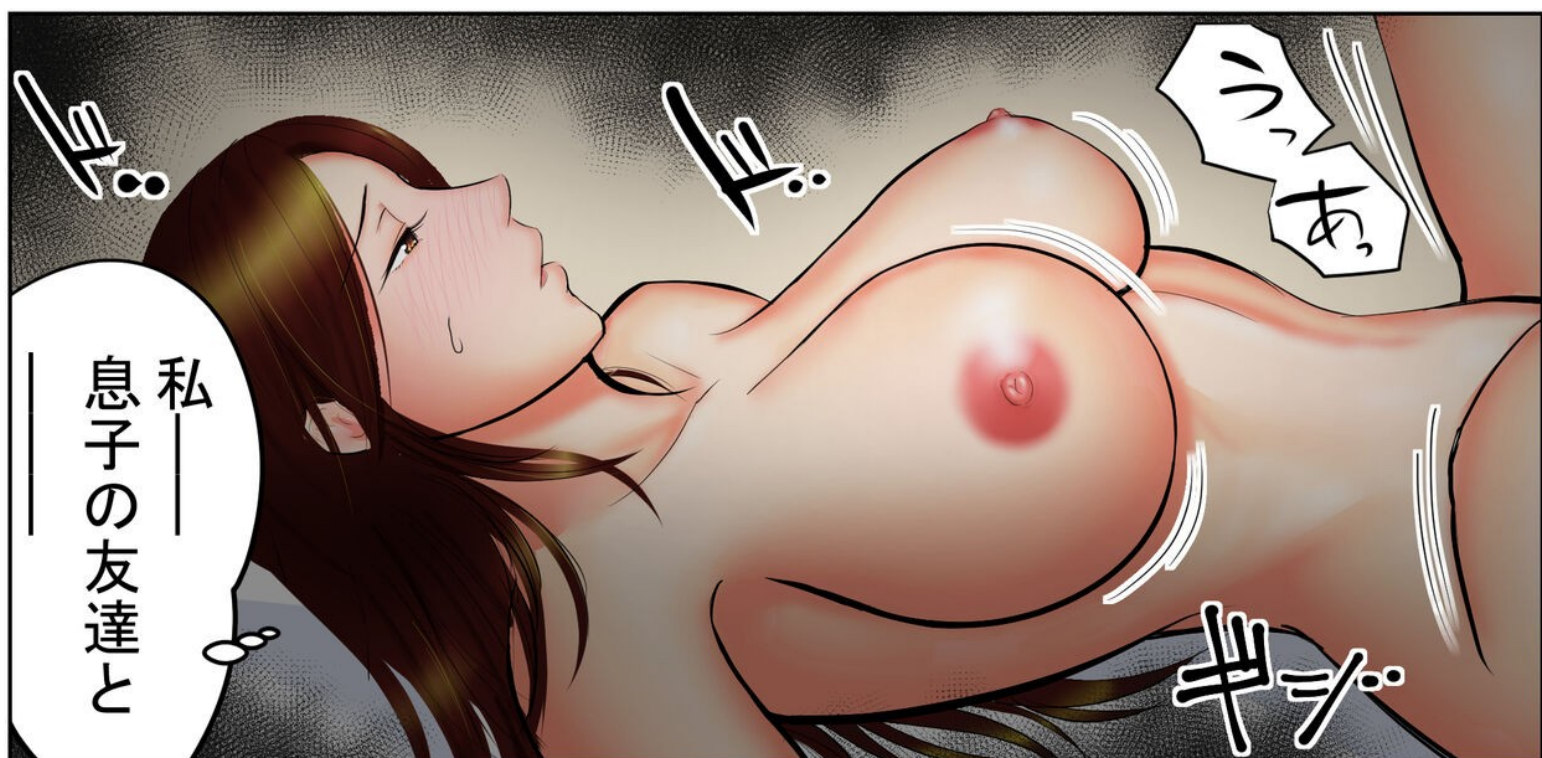
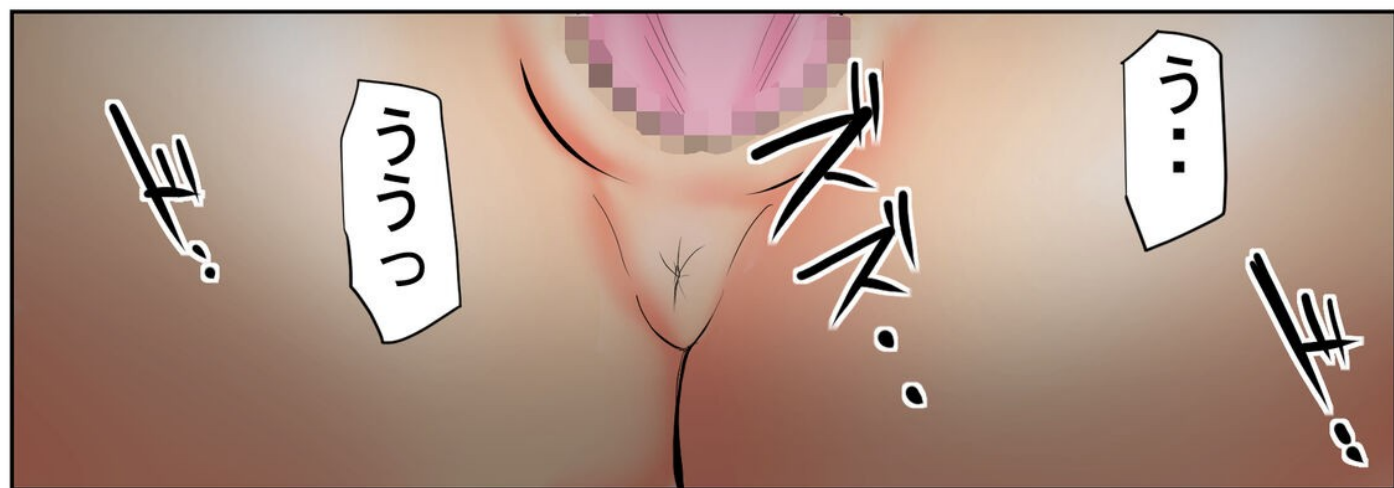
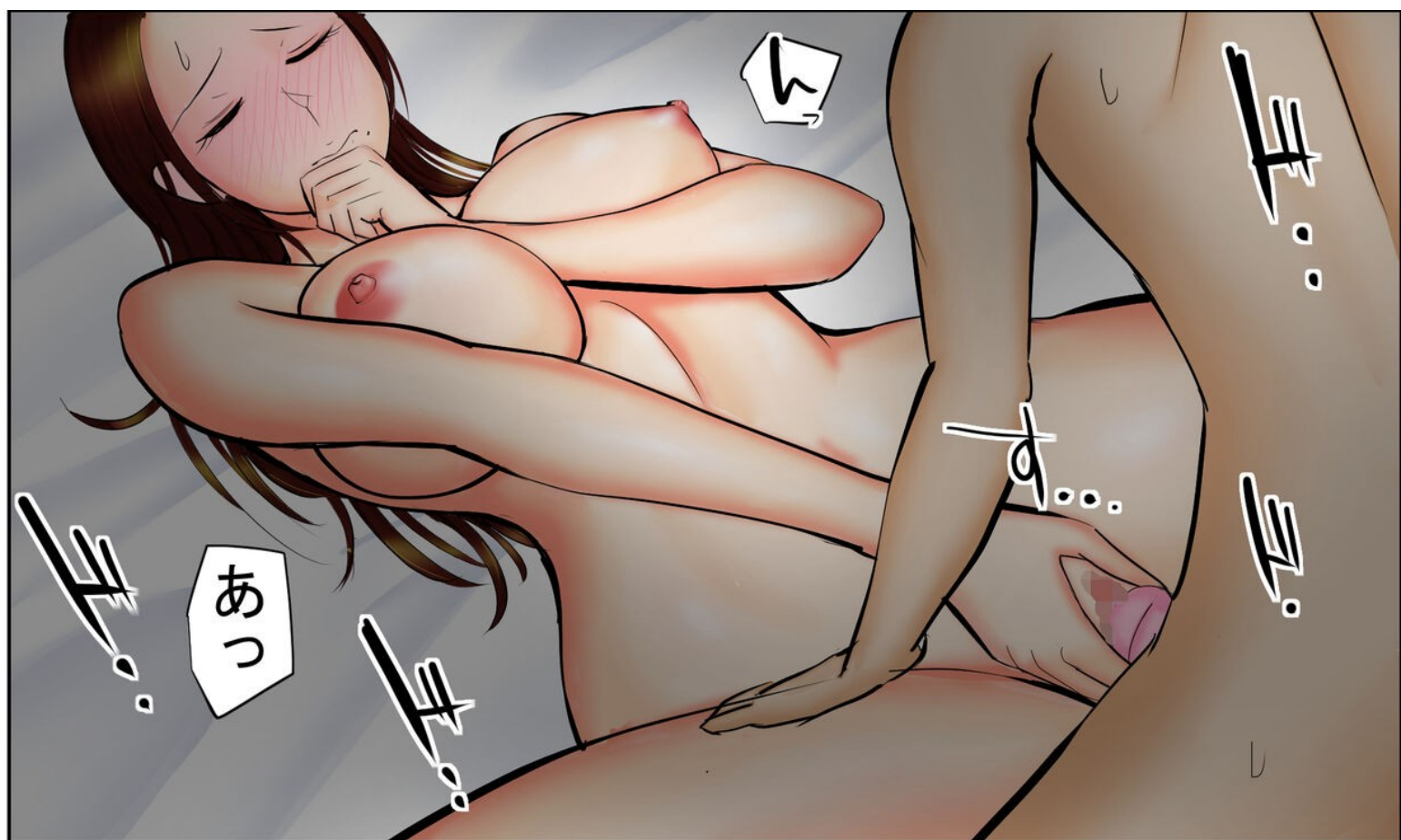
久しぶりで
リードできるか
不安だったけど



キスは彼女とね？

アツシ君







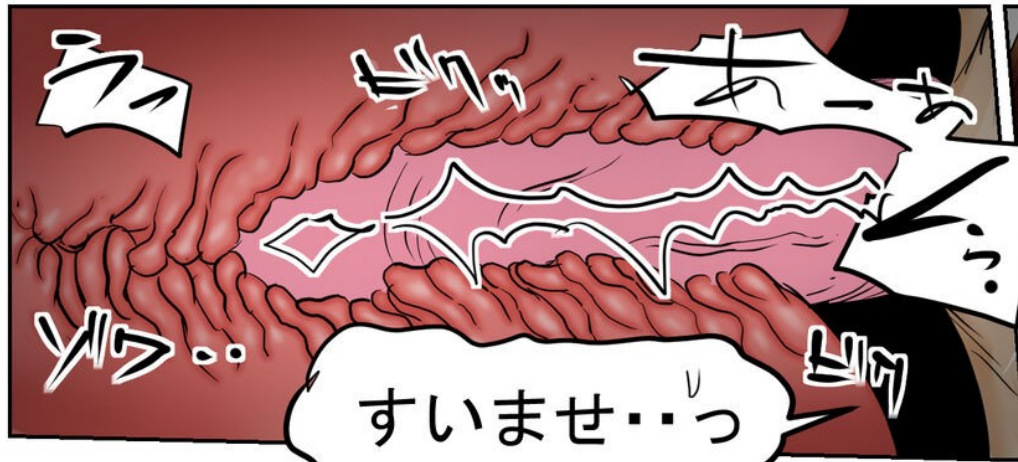
憧れの
結衣さんと

俺っ
感激っス

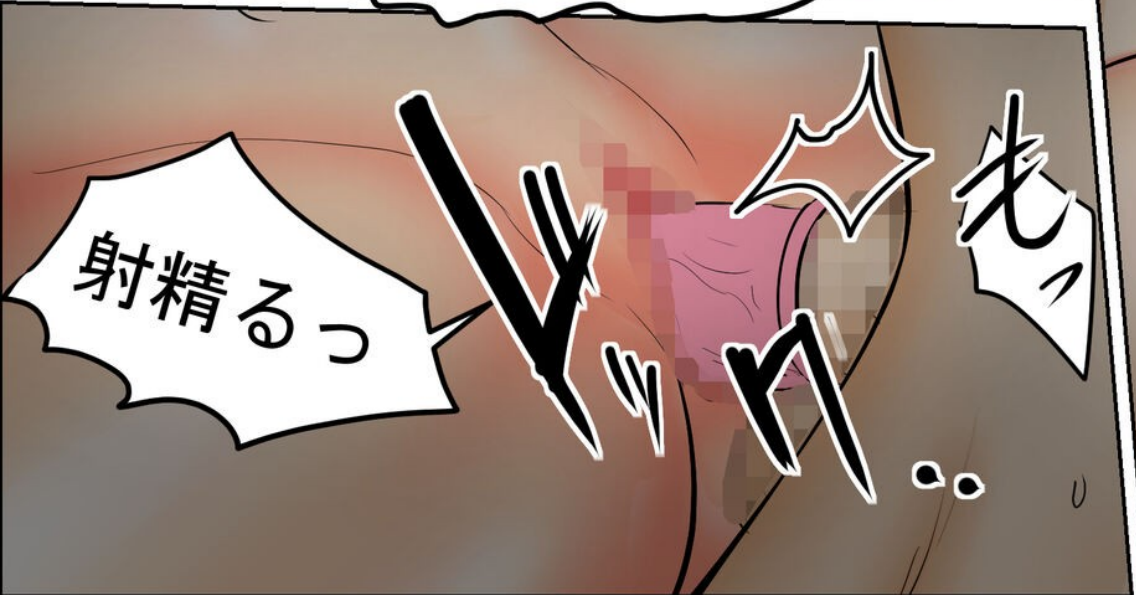
んっ

はっ

はっ

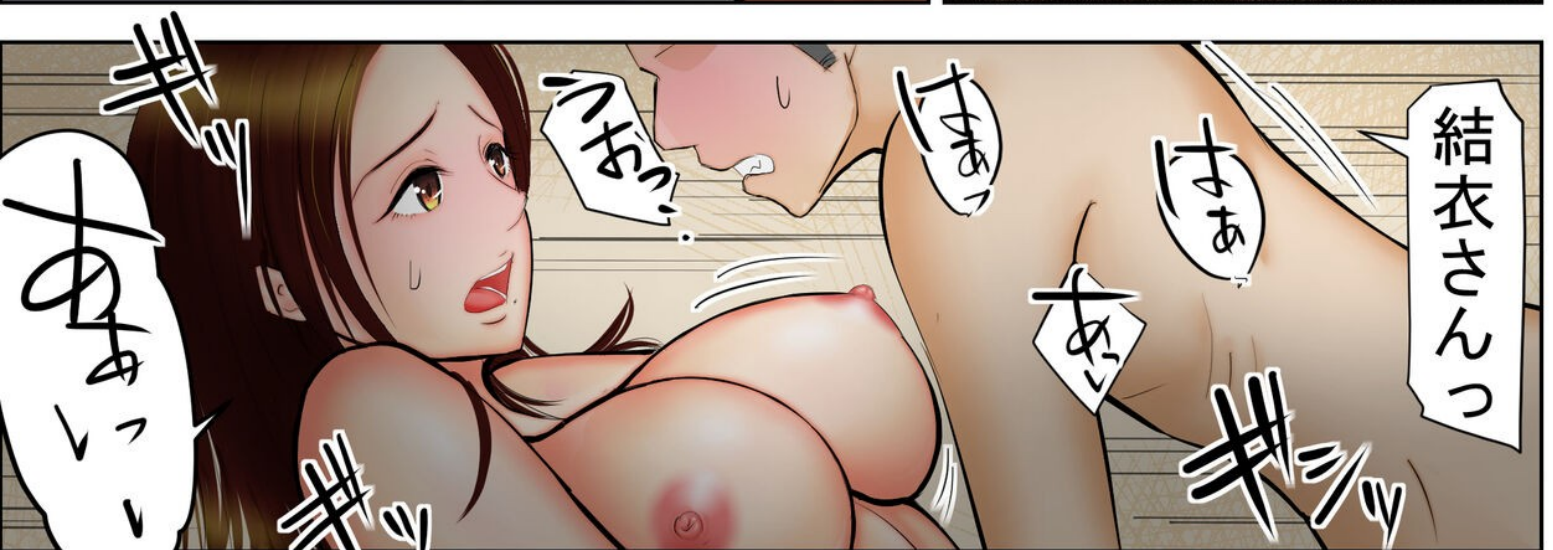
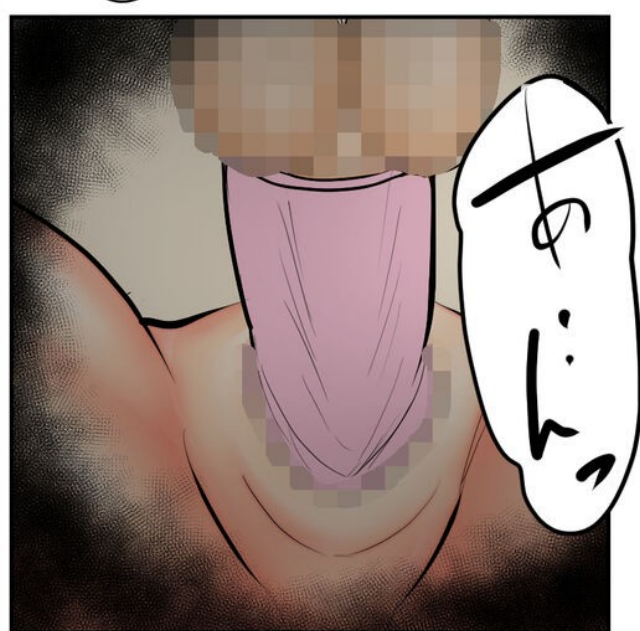


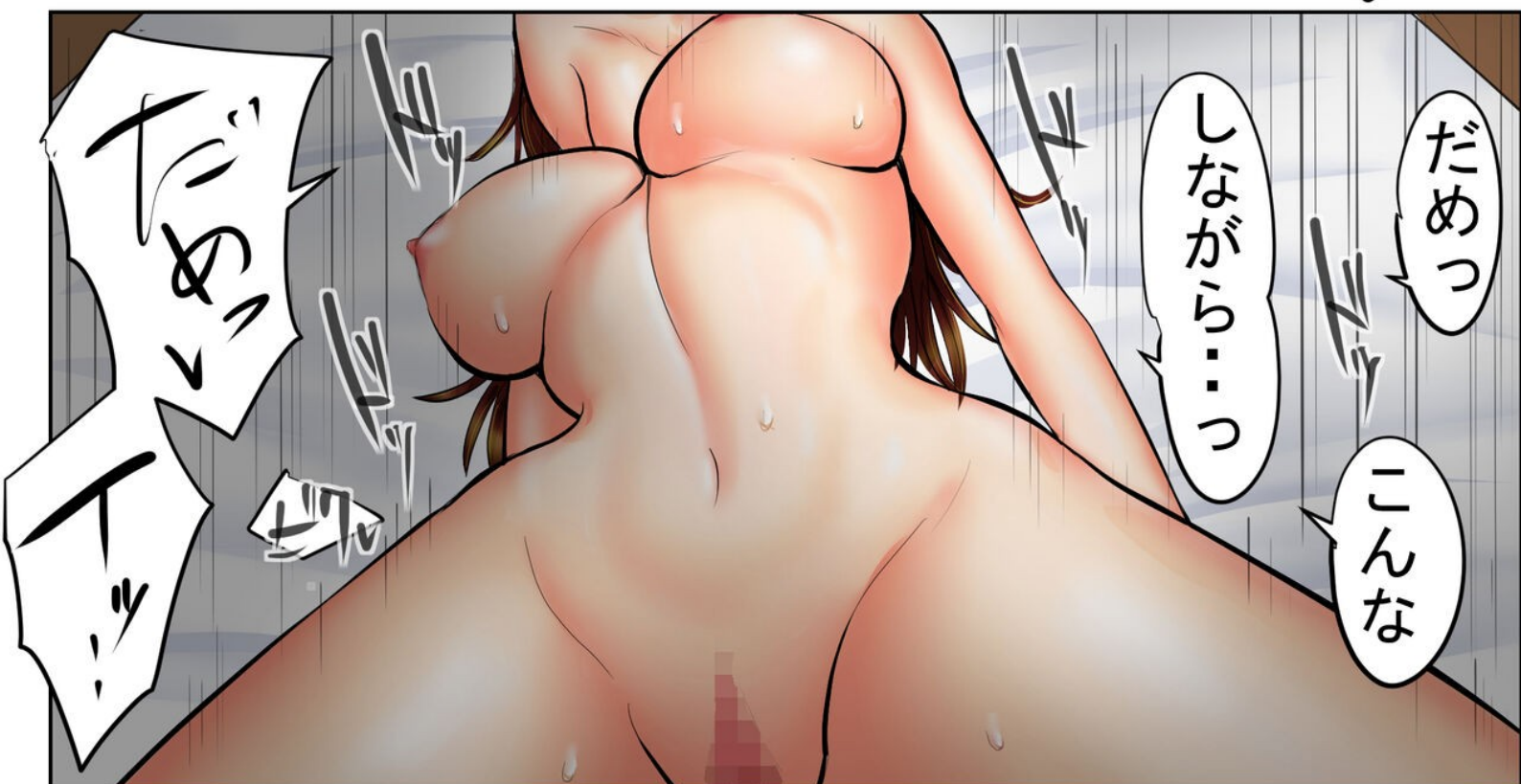
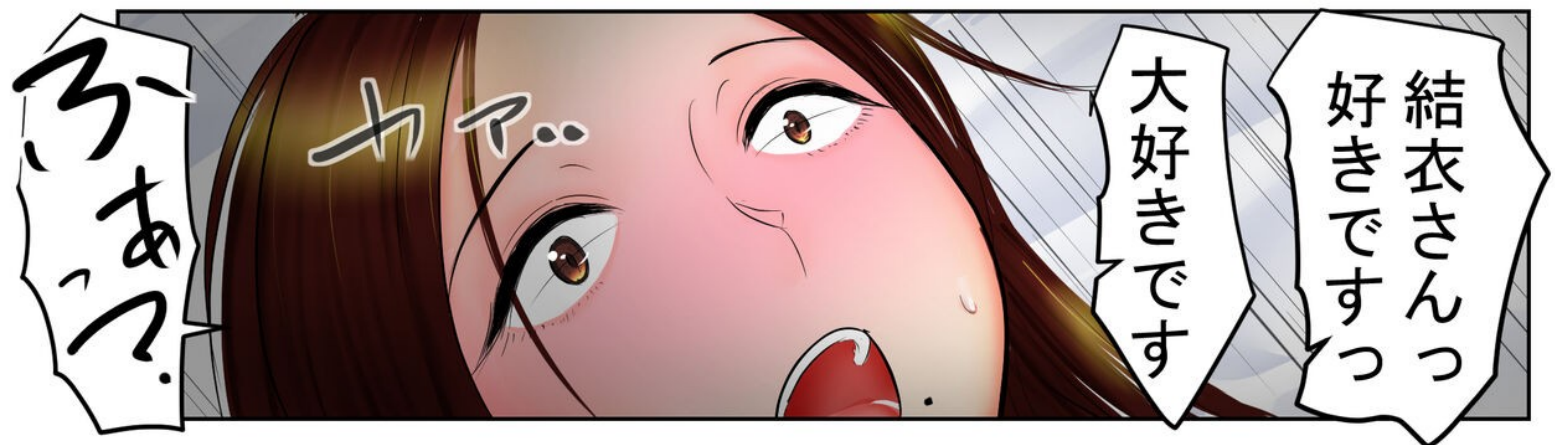
すいませ…っ

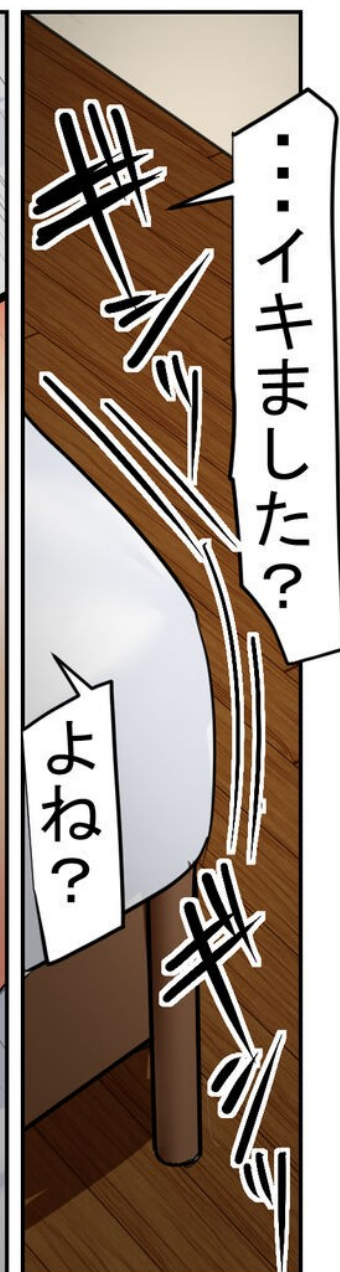


射精るっ

アツシ君…









ア・ツシ君

ゆ

ゆっくり...

ま、また...

俺がつ

俺がつ

人かせた

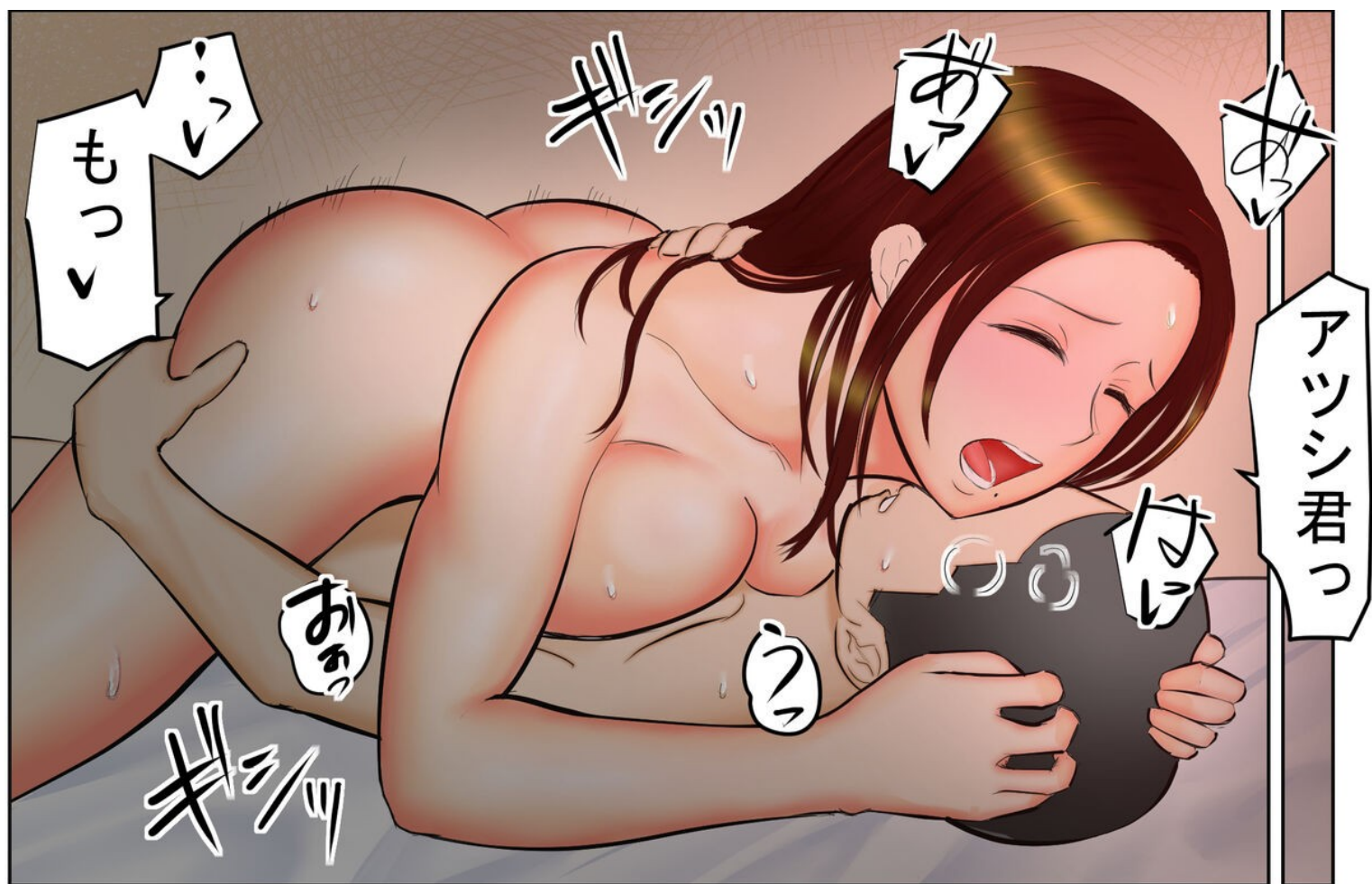
ゴリッ
グワッ
グワッ
グワッ

ゴッ
ゴッ
ゴッ
ゴッ

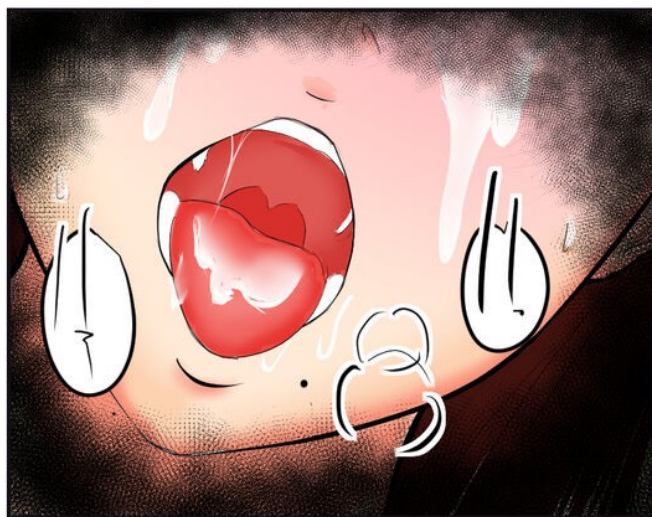
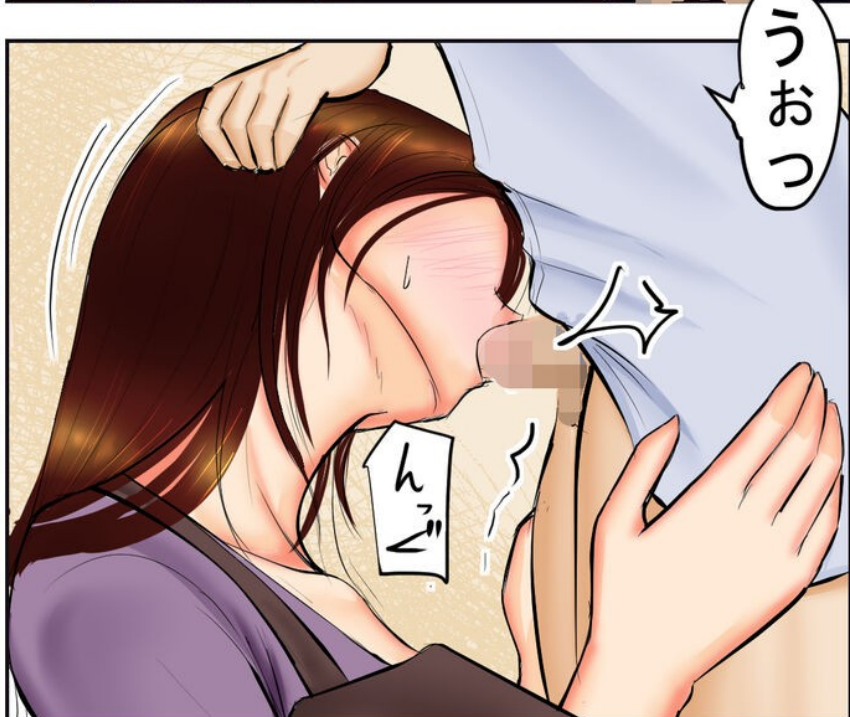
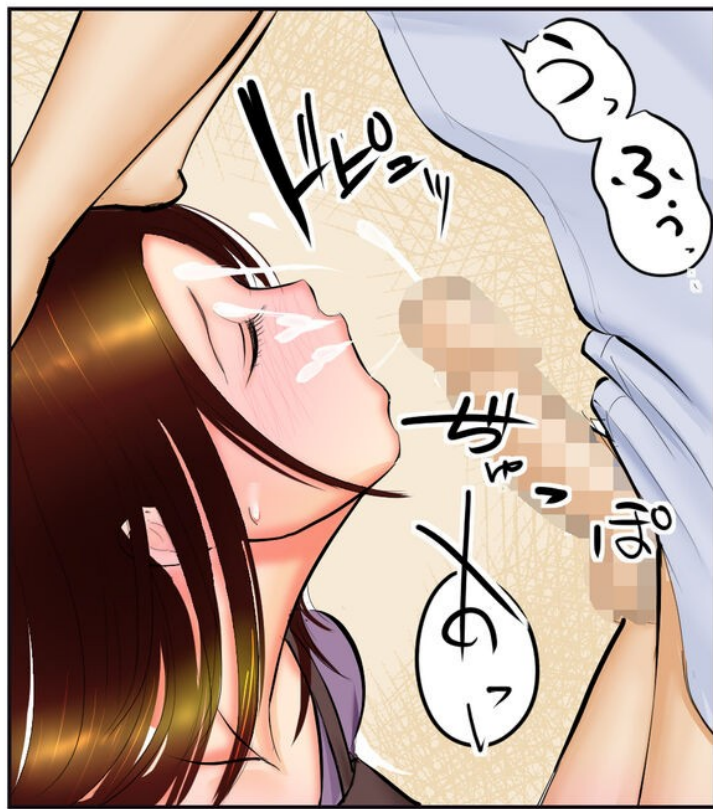
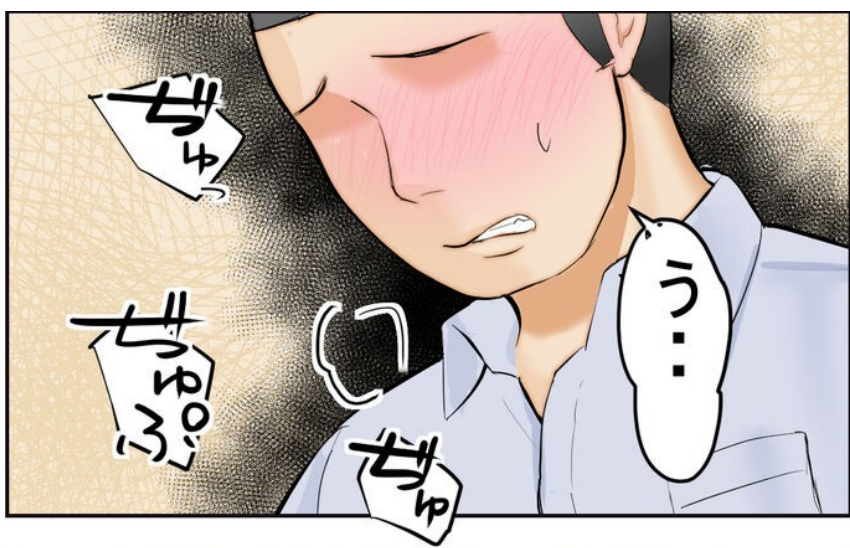
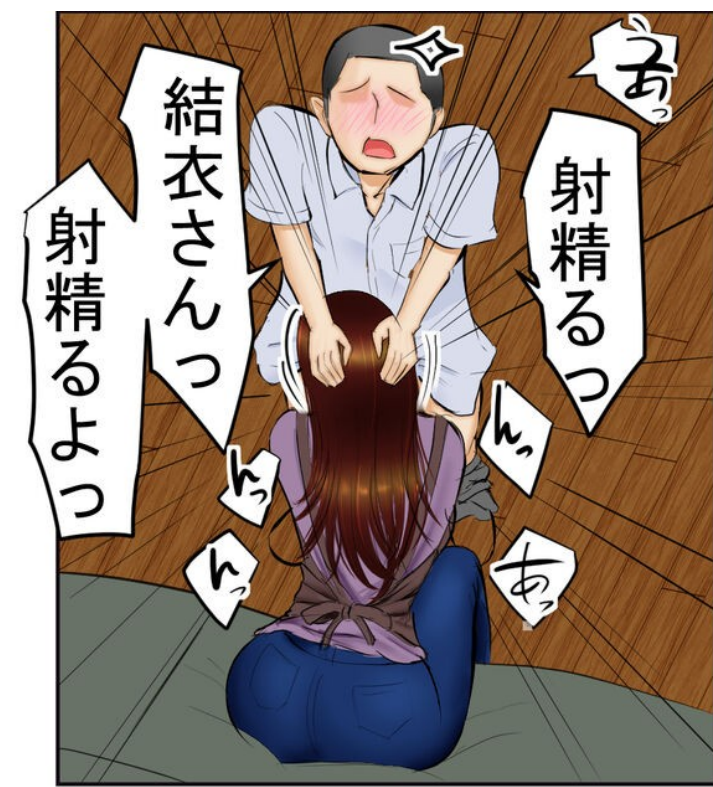
ガッ

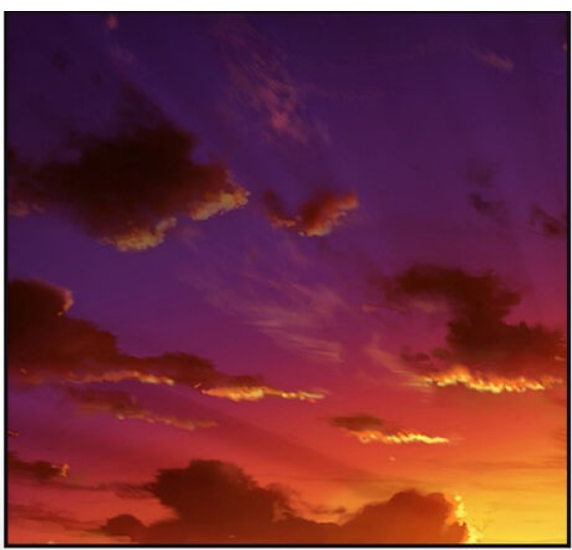
ガッ

ゴッ









だからといって

少し嬉しかった



アツシ君達
今日はケンの部屋に
泊まるって言ってたけど



俺っ
結衣さんっ

ケンだって
いつか気づく

いつまでも
あんなこと

結衣さん

カァァ

——
いつまでも

もしそうなら
嬉しいっス

知りません

アツシ君

俺の事
考えてくれてました？

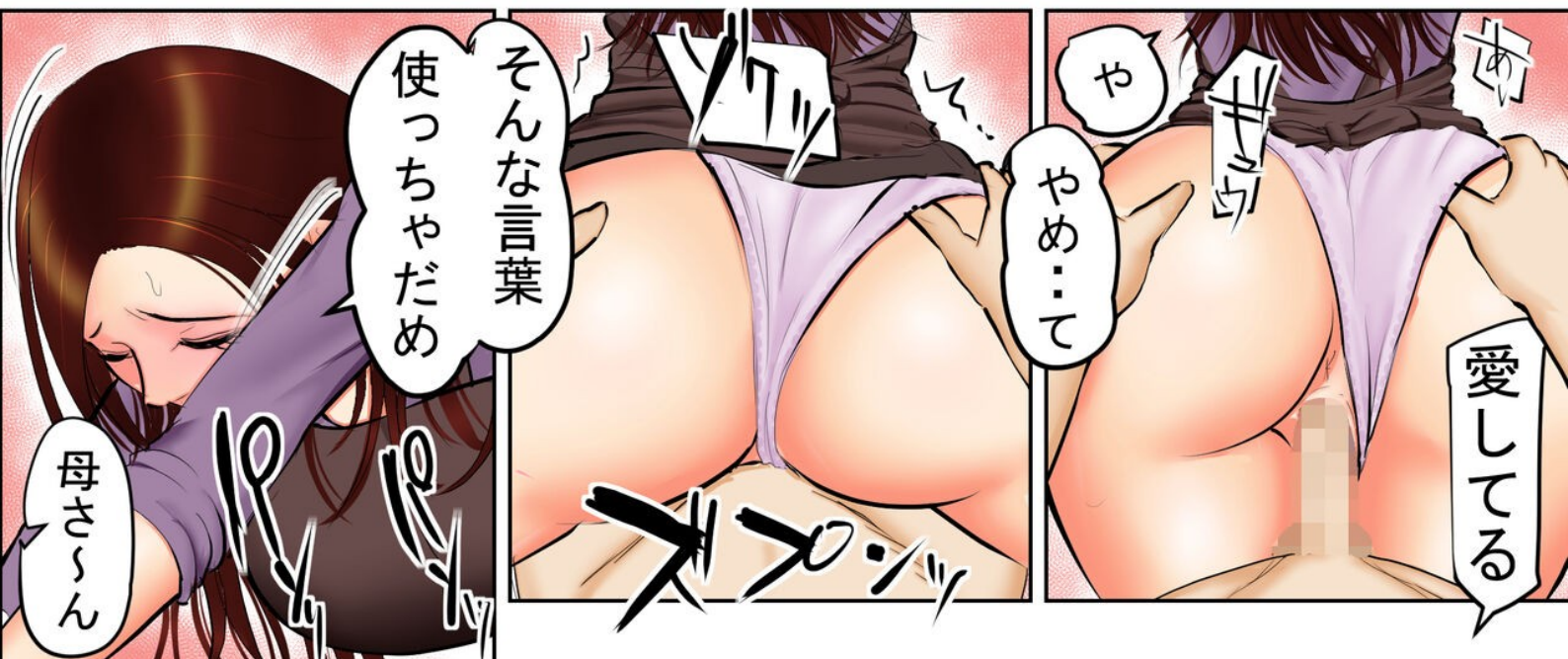
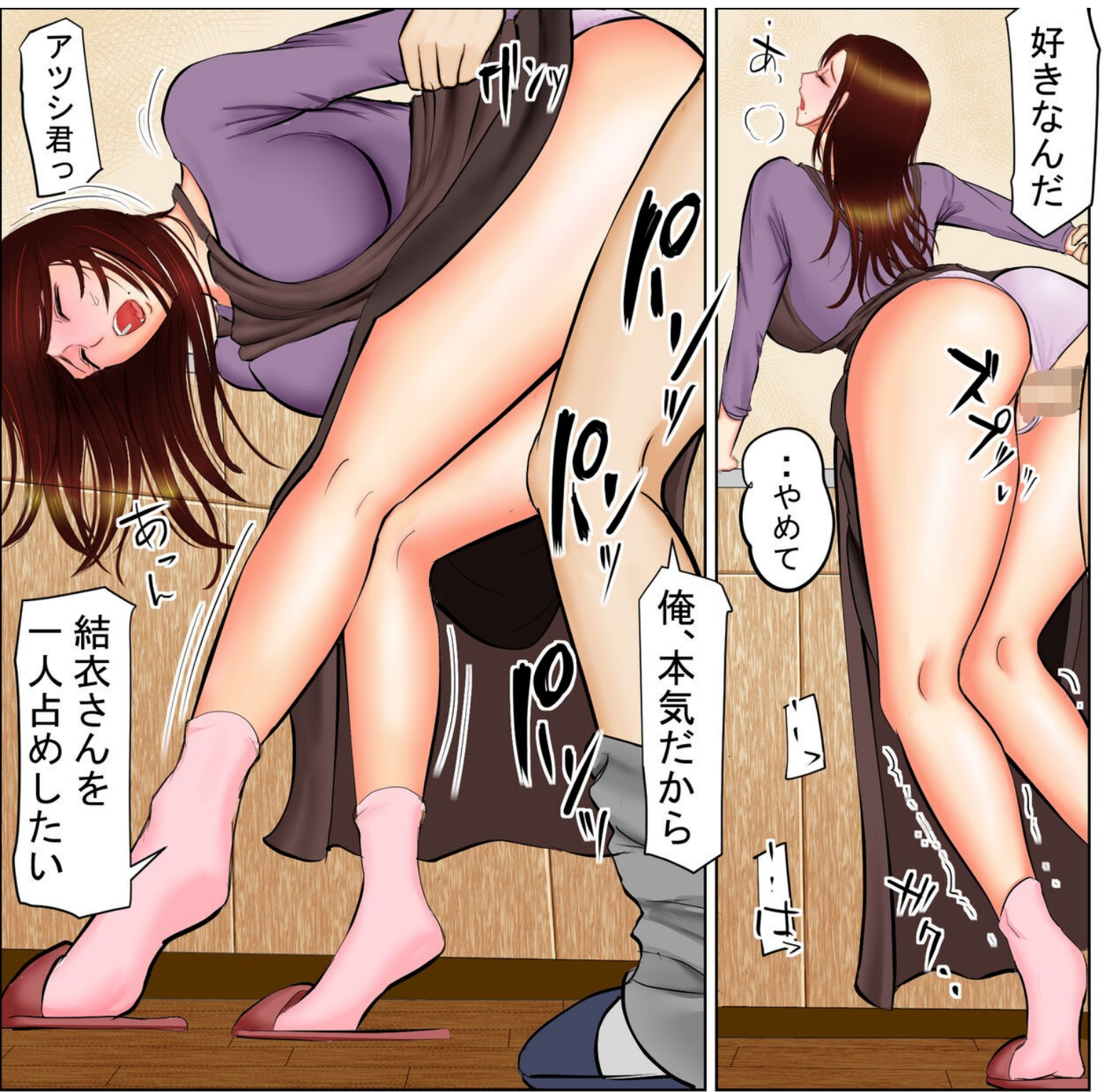


ごめ
ガマン
できない

だめ

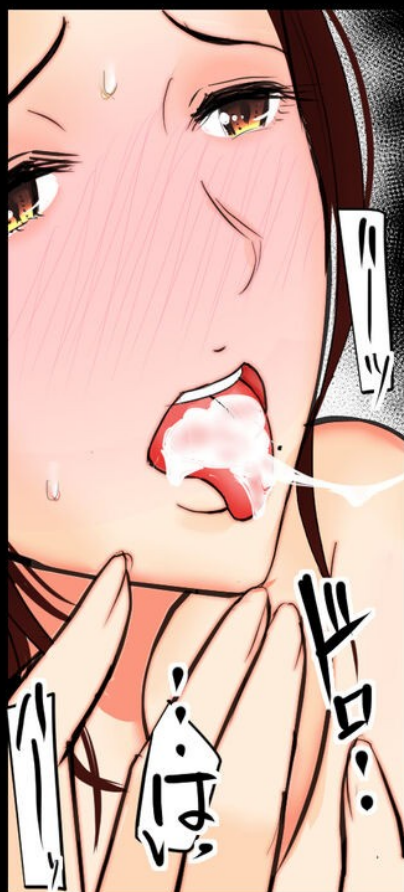
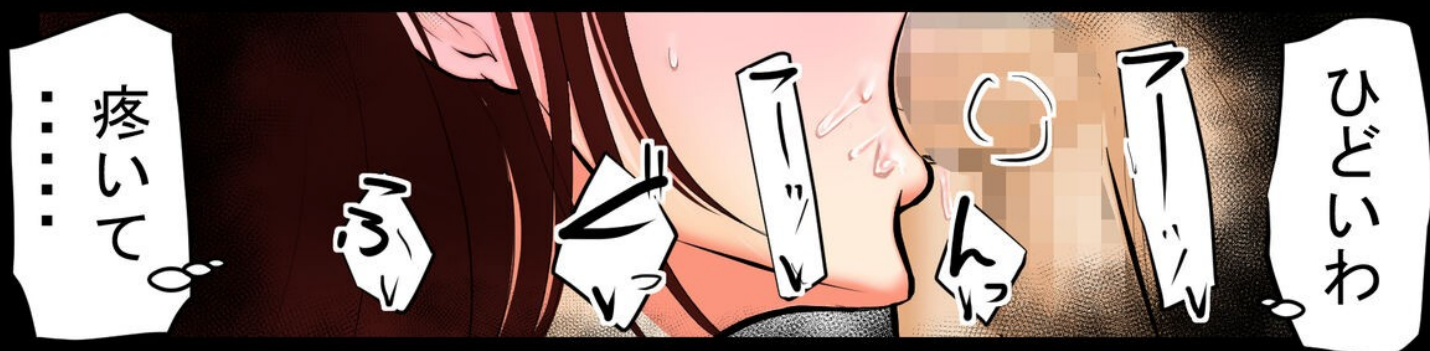
しまいなさい

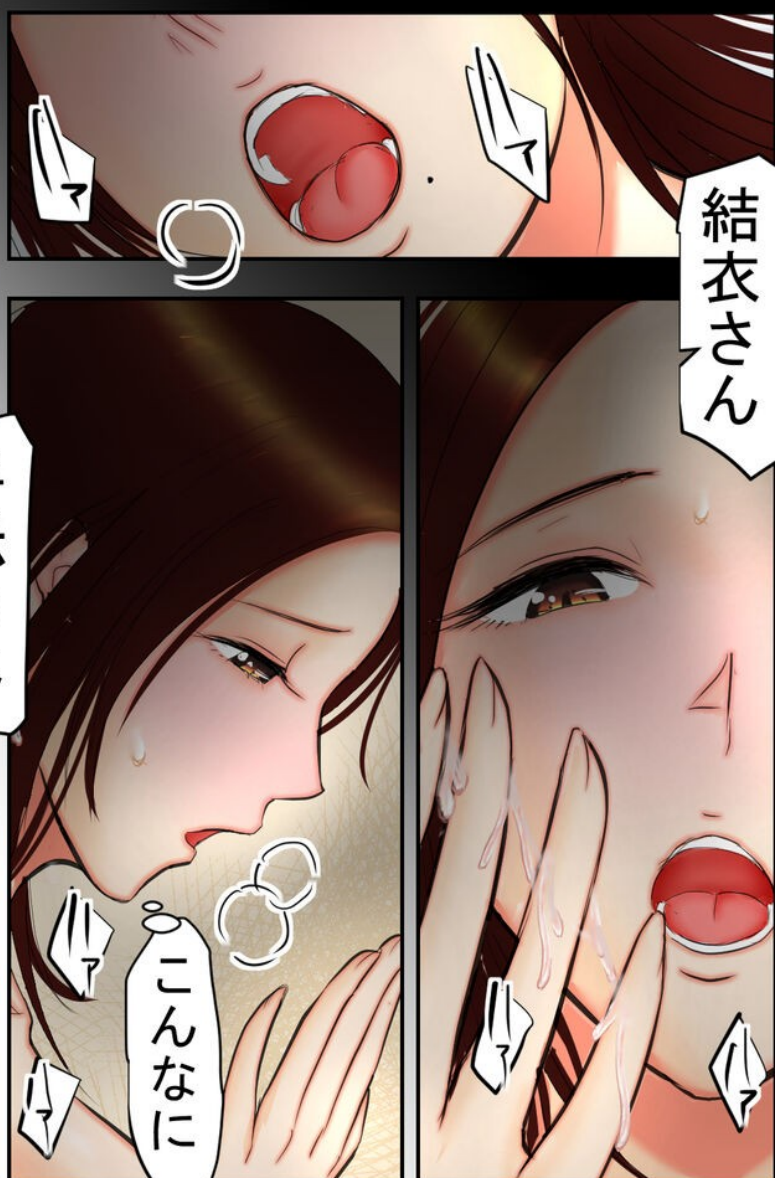




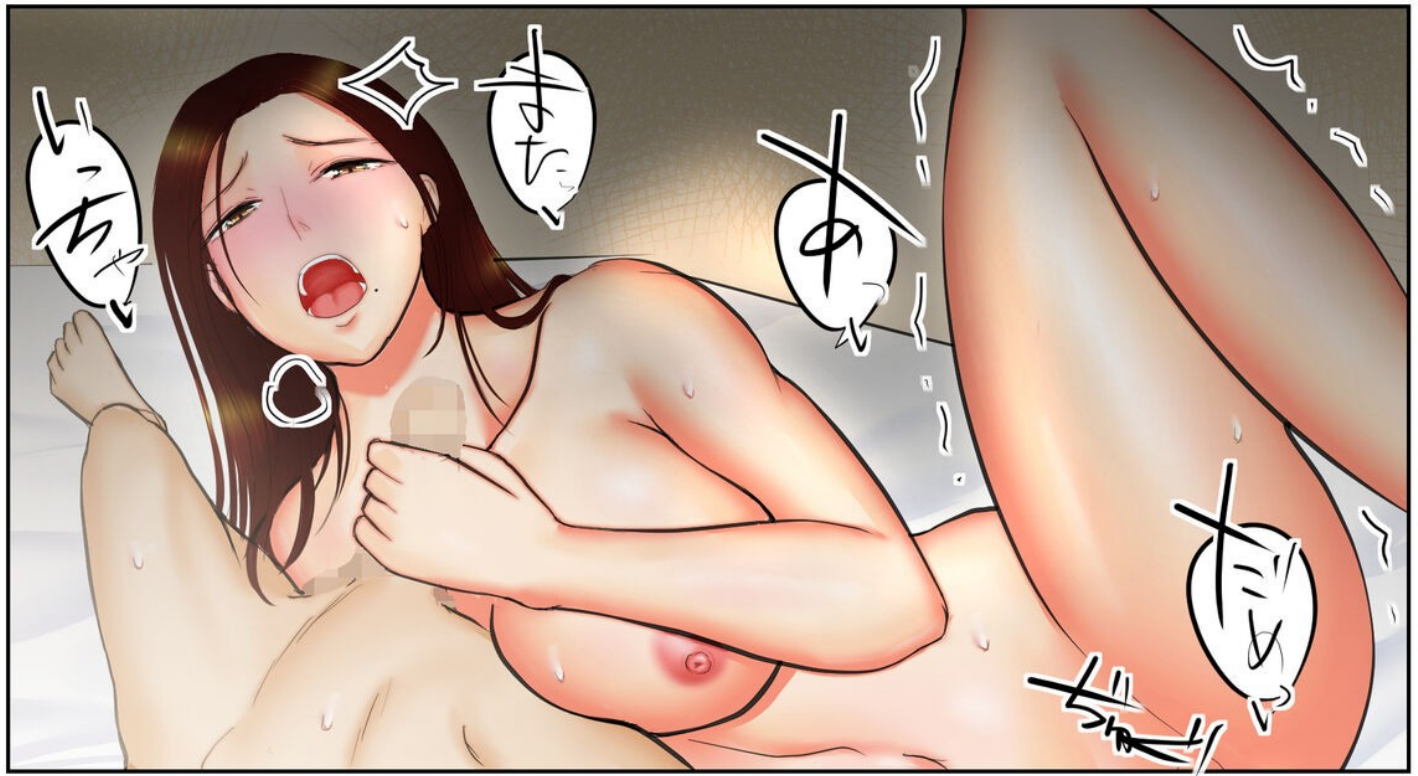
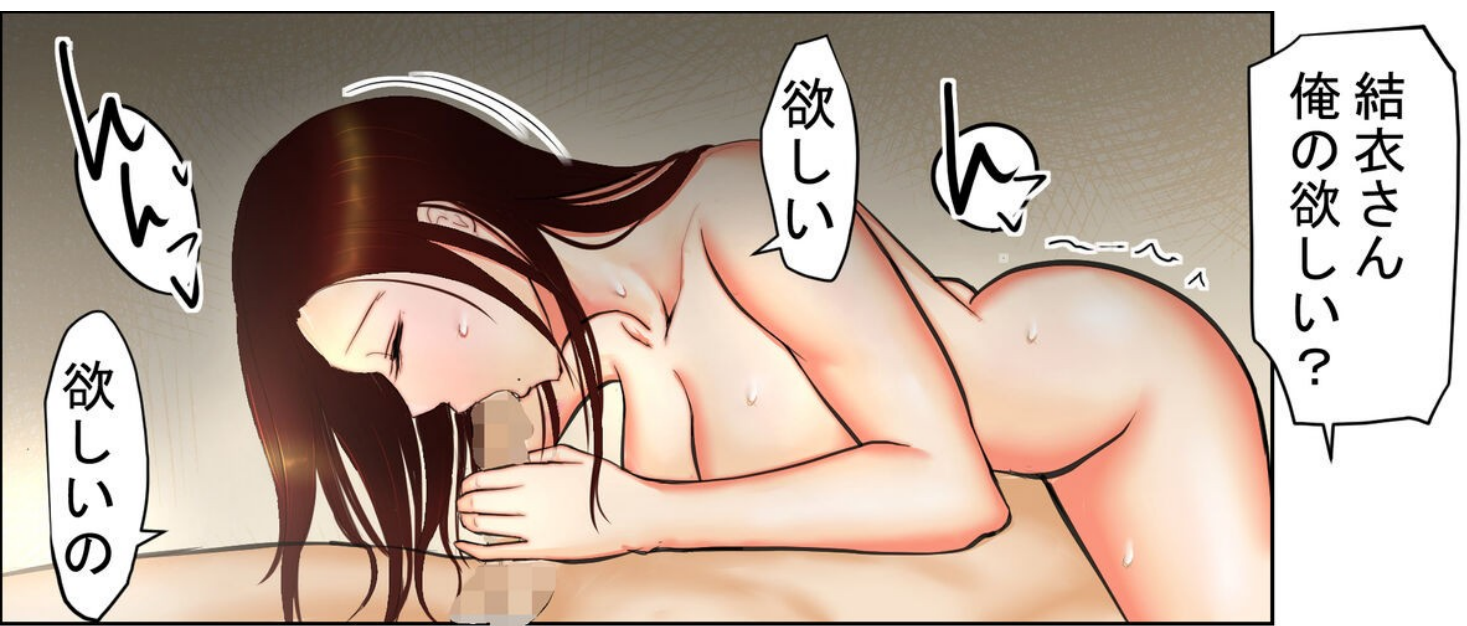


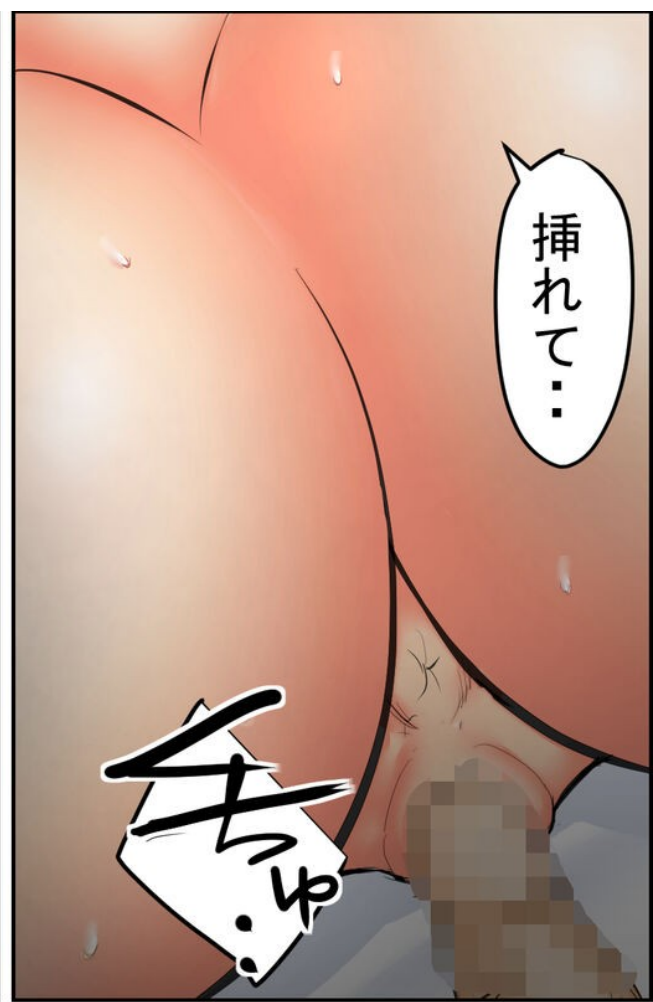




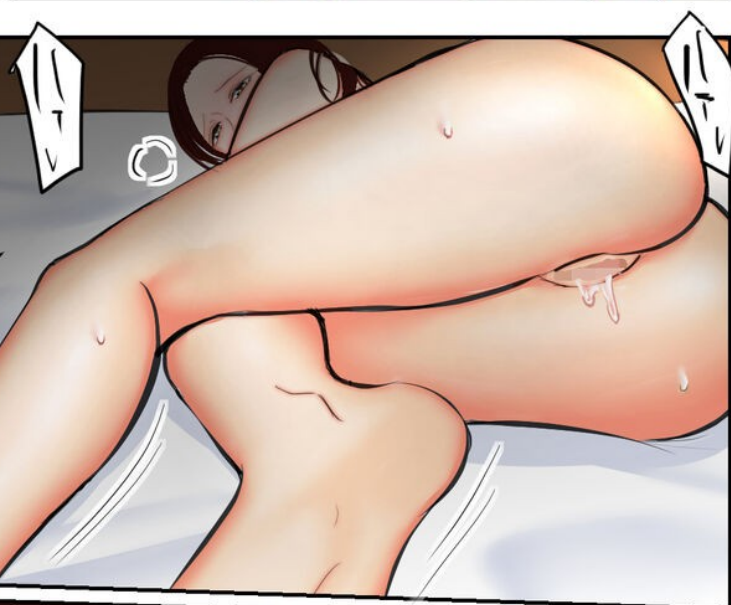
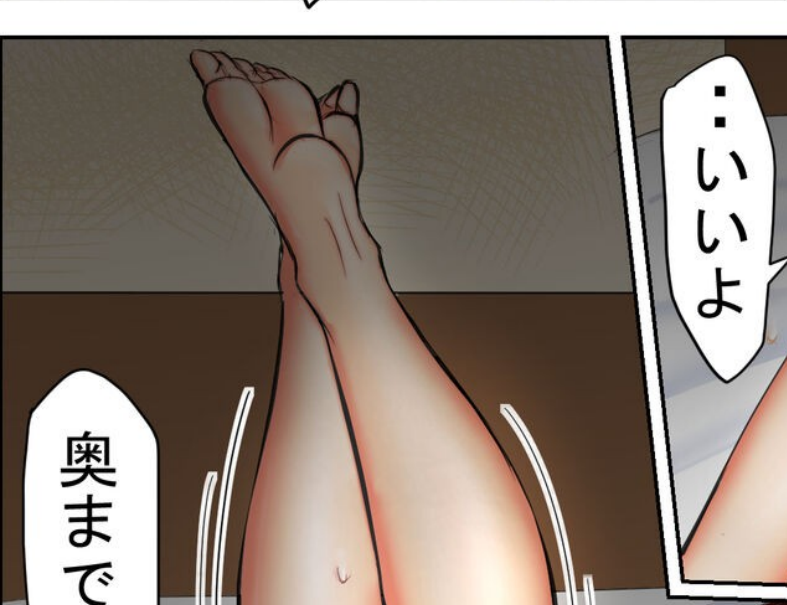


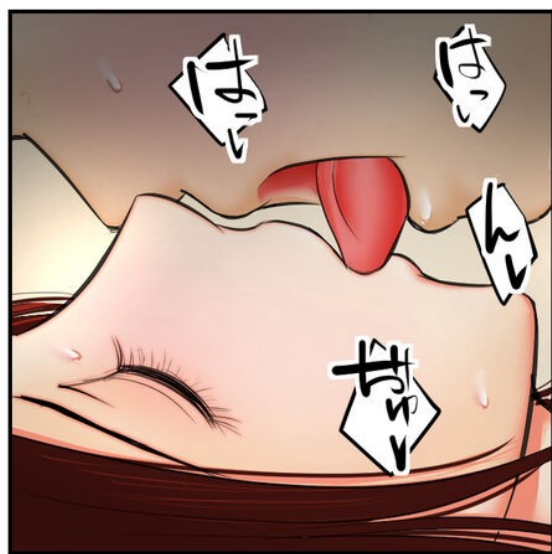
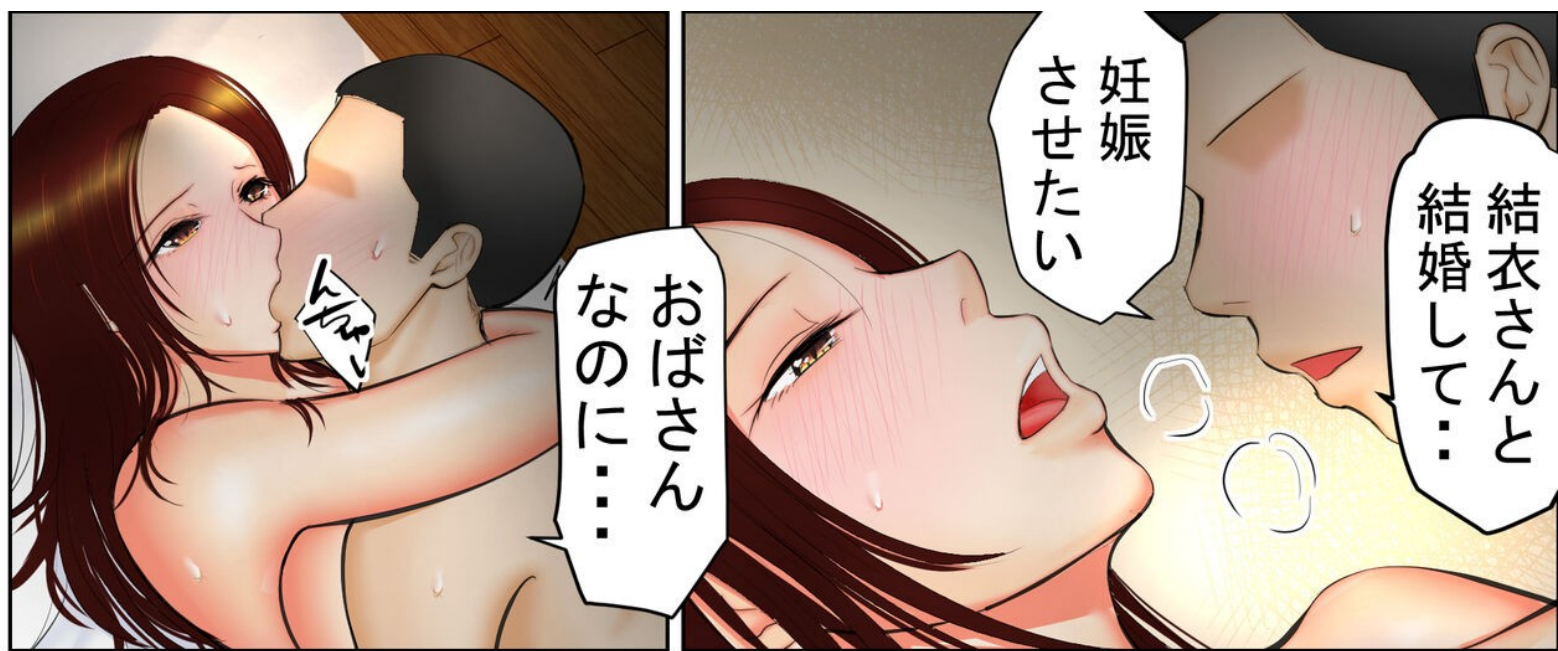
















——膣内に
満たされて

はあ……
アツシ君……
あふ……

ビュッ……
あ……



膣内に——
こんなに

その時は何も
考えられません
でした——

ただアツシ君と
一緒にいたいとか

あ……



それが叶わなかつた
としても——

END